

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月8日

協議会名:滑川市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
滑川市	菟輪① (みのわ温泉～中新～滑川駅前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は9,709人(前年同期8,624人)、1便あたりの輸送人員は5.7人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は増加したものの、目標値は未達成であった。</li> <li>その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	菟輪② (滑川駅前～みのわ温泉～市民交流プラザ・エール前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は9,709人(前年同期8,624人)、1便あたりの輸送人員は5.7人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は増加したものの、目標値は未達成であった。</li> <li>その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
滑川市	大日室山① (博物館前～大日～滑川駅前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は9,386人(前年同期8,374人)、1便あたりの輸送人員は5.6人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は増加したものの、目標値は未達成であった。</li> <li>その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	大日室山② (滑川駅前～大日～市民交流プラザ・エール前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は11,343人(前年同期11,697人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少したものの、1便あたりの輸送人員は改善した。これは、R6.8月に実施したダイヤ改正(中学生の下校時間への配慮と便の統合)によるものと考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	小森① (田林公民館前～小森～滑川駅前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は11,343人(前年同期11,697人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少したものの、1便あたりの輸送人員は改善した。これは、R6.8月に実施したダイヤ改正(中学生の下校時間への配慮と便の統合)によるものと考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	小森② (滑川駅前～小森～市民交流プラザ・エール前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は11,343人(前年同期11,697人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少したものの、1便あたりの輸送人員は改善した。これは、R6.8月に実施したダイヤ改正(中学生の下校時間への配慮と便の統合)によるものと考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
滑川市	栗山① (グリーンタウン北野口～杉本～滑川駅前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は8,065人(前年同期8,448人)、1便あたりの輸送人員は4.8人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少し、目標値は未達成であった。その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	栗山② (滑川駅前～杉本～市民交流プラザ・エール前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は4,676人(前年同期5,578人)、1便あたりの輸送人員は3.5人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少し、目標値は未達成であった。その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	市街地循環 (滑川駅前～西滑川駅～市民交流プラザ・エール前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は4,676人(前年同期5,578人)、1便あたりの輸送人員は3.5人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は減少し、目標値は未達成であった。その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別々実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別に実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
滑川市	寺町 (滑川駅前～寺町～市民交流プラザ・エール前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は9,309人(前年同期9,150人)、1便あたりの輸送人員は7.0人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は増加し、目標値を達成した。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別の実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体のさらなる利便性等の向上が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別の実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>
滑川市	北部循環 (滑川駅前～水族館前～市役所前) 車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のため、市内公共交通の情報も掲載したコミュニティバスのルート図・時刻表を全世帯や商業施設等に配布したほか、市公式LINEやXなどのSNS媒体で運行に関する情報をこまめに発信した。</li> <li>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。また、市内のイベントに合わせて、『「のる my car」無料デー』を実施した。</li> <li>「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図った。</li> <li>通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗継ぎを検証したが、大きなダイヤ改正はなかった。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数は7,199人(前年同期6,121人)、1便あたりの輸送人員は5.4人(目標7.0人)であった。</li> <li>令和6事業年度と比べると利用者は増加したものの、目標値は未達成であった。その理由として、自動車運転免許証返納者などの高齢者を中心とした既存利用者が減少したことに加え、新規利用者の伸び悩みが考えられる。</li> <li>今後、利用状況の検証や、別の実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域交通全体の利便性の向上と効率化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者獲得のための事業を継続する。</li> <li>必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。</li> <li>そのほか、別の実施しているオンデマンド型の実証運行の状況を踏まえながら、地域にあった運行形態を探っていくものとする。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月8日

協議会名:	滑川市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>滑川市においては、JR北陸本線と富山地方鉄道(鉄道・路線バス)を軸とし、市が運営するバス(「市営バス」、「コミュニティバス」、「福祉バス」)の3つの系統が市域内をカバーする公共交通機関網が広がっていました。しかし、この3つのバス系統は、それぞれに目的や運行形態、料金が異なり、必ずしも市民にとって利用しやすいとは言えない状況でした。</p> <p>これらの状況を解決するため、平成18年5月に「滑川市公共交通計画策定委員会」を組織し、翌年3月には公共交通の現状や市民ニーズの把握を行ったうえで「滑川市公共交通計画」を策定し、組織を「滑川市地域公共交通会議」に改組、強化したうえで「滑川市公共交通計画」に基づいた実証実験運行を実施しました。</p> <p>この実証実験の結果をもとに、【高齢者等の移動手手段の継続的な確保】と【中心市街地の活性化】を軸とした公共交通の活性化をさらに推進するため、平成20年3月に「滑川市地域公共交通総合連携計画」を策定し、既存の3つのバス系統を統廃合した『コミュニティバス(のるmy(マイ)car(カー))』として新たにルート設定を行い、市街地活性化や通勤通学者の利便性確保の観点からJR滑川駅と市民交流プラザ前を発着拠点として、平成20～22年の3年間、国の「地域公共交通活性化・再生総合事業費補助」を活用した実証実験運行を行ったところです。</p> <p>現在、本市のコミュニティバスは、これまでの実証実験運行を踏まえ、平成23年4月より本格運行を実施しておりますが、全路線があいの風とやま鉄道滑川駅を発着拠点とすることで地域間幹線系統(富山地方鉄道路線バス)のフィーダー系統となっており、通勤・通学者を支援しております。また、厚生連滑川病院や大規模な商業施設(ショッピングセンターエール、滑川市民交流プラザ(入浴施設「あいらぶ湯」)、PLANT3など)が市民の日常生活機能を大きく担う中で、これらの施設に向かう唯一の手段として、車を運転できない高齢者等を中心に生活に必要不可欠な交通として機能するとともに、人口流出の著しい旧町部に活気と賑わいをもたらすなど、市街地の活性化にも大きく貢献しているところです。</p> <p>しかしながら、地方分権の進展や人口減少、少子高齢化、景気の低迷を背景とした歳入の影響など社会経済情勢の変動により、本市を取り巻く状況はめまぐるしく変化しており、今後の財政状況についてはより厳しさを増すことが予想されることから、バス路線を十分に維持させていくことが困難な状況にあります。</p> <p>高齢者や体の不自由な方々、自動車を自由に運転できない方々にとって、安全・安心な交通手段の確保は極めて重要な課題であり、中心市街地の活性化を図るうえでも、地域公共交通の要であるバス路線については、これまで以上に利用者や地域の方の声を反映させ日々改善を加えながら今後も維持していくことが必要なことから、「滑川市地域内フィーダー系統確保維持計画」を策定し、「地域公共交通確保維持事業」に取り組むことで、7つのバス路線を確実に確保・維持し、住民の生活交通手段を存続させていくものです。</p>